

# 八王子の風景の

## これまでとこれから

～地域景観から考えるウェルビーイング～

2024. 1. 24 水  
19:00 ▶ 21:00

八王子市学園都市センター  
第5セミナー室  
(旭町9-1 八王子スクエアビル12階)

### 登壇者



#### 講師

HUMUS (ヒュマス) 代表

**高沖 哉さん**

ランドスケープアーキテクト。八王子市景観アドバイザーや武蔵野美術大学等の非常勤講師も務める。八王子市出身。



#### 市民パネリスト

(一社)八王子冒険遊び場の会 理事

**北見 みゆきさん**

登録ランドスケープアーキテクト補。元八王子市景観審議会委員であり、現在はプレーパークの運営や子どもの遊び環境の向上のための啓発活動などを行う。

### セミナーの流れ

- 1 はじめに：ランドスケープアーキテクトとは
- 2 テーマ1：八王子の風景のこれまで
- 3 テーマ2：八王子の風景のこれから
  - ・これまでの風景を守り、次世代につないでいく活動
  - ・風景が持つ魅力を、時代に則した形で活かす取組
  - ・地域環境を活かしたシビックプライドの醸成
  - ・市民が担い手となり、更新されていくまちなみ
- 4 おわりに：景観とウェルビーイングの関わり

## 1 はじめに：ランドスケープアーキテクトとは



ランドスケープアーキテクトとは、植物を扱いながら、建物、土壌、交通との関係の中で、屋外空間を成形するという職業です。私がランドスケープアーキテクトとは何かと聞かれたら、環境に適した地面を整え、地域の風景づくりを支えていく職能だと答えます。

自分たちが美しいデザインを作って刷新していくというよりも、その後その土地で風景が出来上がっていくためにどういった初期設定をしていけばよいのか、というスタンスで仕事を行っています。

## 2 テーマ1：八王子の風景のこれまで



市は、景観に対する意識を高めるとともに良好な都市景観の保全と活用に役立てるため、平成29年8月に「八王子景観100選」を決定しました。その際に市民の立場で選定に携わった北見さん、当時の様子を教えてください。

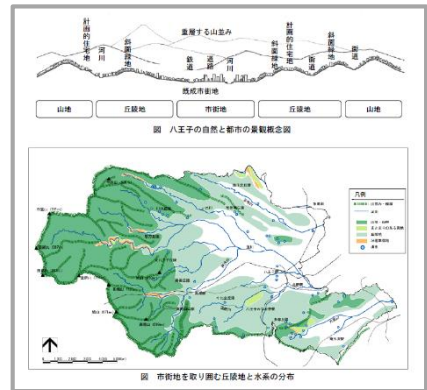
選定に当たっては、八王子の景観をワークショップ形式で整理集約したり、現地見学を行ったりしました。「この景観は八王子市民にとって大切なものだ」ということを、自分の想いと共に拾い上げてきたつもりです。

候補地となったどの景観にも市民の熱い思いがあり、選定を行うなかで新たな発見や魅力に気が付くことができました。



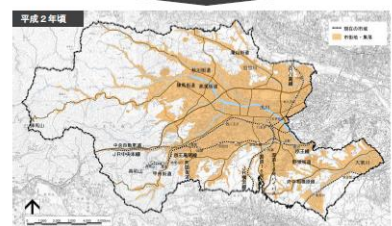
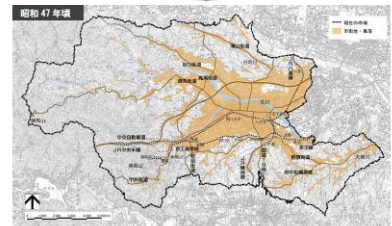
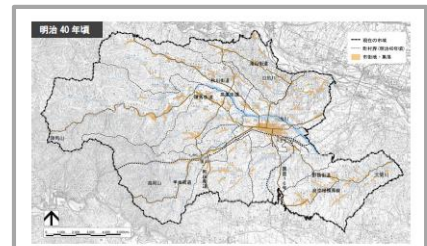
ありがとうございます。八王子は地形変化に富んでいて、山、川、低地、台地、丘陵地を全部見ることができるといわれています。

そのような場所は、東京の中心部からだと八王子が一番近く、都心からの近さに対する自然環境の豊かさが、八王子の価値を高めています。



地形の多様さ

八王子は、山からの小川が多くあったために古くから人が住み着いた地域であり、また、甲州街道と大山街道という、東西と南北の動線がクロスしていたために商売がなりたってきた地域です。このように、自然環境とその自然環境から発生した人文環境を有しています。



昭和40年～平成2年の市街地の変化急速に広がっていることが分かります。

市街地の変遷を辿ると、町の様子はどんどん変わっていくことが分かります。近代の激しい変化の中では、その変化に合わせていくことも必要です。

古いものが良い、新しいものが良くないという考え方ではなく、古いものを新しいまちに残しておくことや、新たな活用をしながら良いところを残していくなど、柔軟にまちなみについて考えていかなくてはいけない、そんな風に思っています。

### 3 テーマ2：八王子の風景のこれから

#### これまでの風景を守り、次世代につないでいく活動



景観絵本「八王子まちなか景観みらいものがたり」を、理想的なまちのイメージを共有するツールとして活用し、次世代につないでいこうという事例を紹介します。

#### ■アシナミドリ

東京都立大学の学生が景観絵本を実現するための取組を提案して、西放射線通りの街路樹の植栽ますに地被植物や低木を寄せ植えして足元の緑化を図った事例です。

商店会の方に話を伺ったところ、西放射線通りの街路樹の下で過ごしたという記憶や緑が豊かな記憶があるため、緑に愛着を持って水やりなどの維持管理をしている、と仰っていました。



#### ■黒堀キャンバス

八王子は繊維業が盛んで接待などもあり、花街もありました。その文化を若者に伝えていこうという取組事例です。夏の八王子祭りでは風鈴が設置され、成人式では写真スポットにもなっていました。

目線の高さで景観をそろえていくと、まちなみが整ったように見えてきます。周囲がきれいになると、自分の家もきれいにしようという動機付けにもなり、結果としてきれいな通りになっていきます。



#### ■そめるプロジェクト

八王子には染物の工房などもありました。こちらは、そういった昔からの文化と今のまちなみの賑わいを重ねるように、東京都立大学の学生が「八」を様々なデザインし、まちなみづくりに貢献されている事例です。



#### 景観絵本とは

市民や専門家などが考えた八王子まちなかの未来の姿を描いたもの。「こんな場所で、こんなことができたらいいな」という想いをみんなで共有するためのツールです。



## 風景が持つ魅力を、時代に則した形で活かす取組

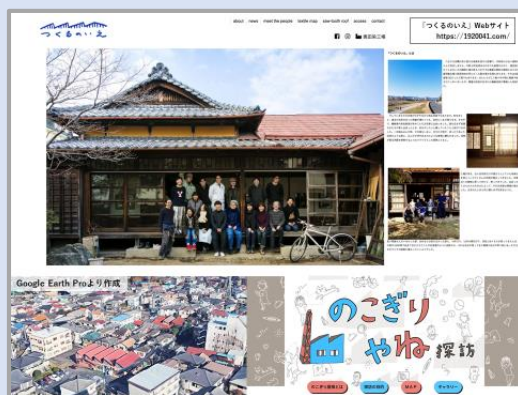


自然環境によって色々なものができてきた中で、これまでどおりの使い方が維持できないためみんなで新しい維持方法を考えている、そんな事例を紹介します。

### ■つくるのいえ

中野上町は、水捌けが良く、多くの水を手しやすい環境であったことから、かつては日本最大の製糸工場があり、製糸業、染物、機織りの工場が集積しました。

当時の文化が残っている中、奥田染工場の方が中心となり、染物を盛り上げるだけでなく、クリエイターやものづくりをする人たちに声をかけて拠点を作ろうという活動を始めました。地形に基づいて栄えた産業が、形を変えながらつながっています。



### ■小比企地区の農地を生かしたまちづくり

小比企丘陵には都市型農地が広がっています。緑が減っていくなか、農地を守り、都市農業の価値を知ってもらって商品を手にとってもらえるようにする取組があります。

山田駅の近くで磯沼牧場が中心となって営業しているトーキョーファームビレッジでは、景色を眺めながら新鮮な牛乳や焚火などが楽しめます。また、小比企丘陵の尾根沿いには野菜の無人販売もあります。都市農業の魅力を上手く活用し、今のニーズに合わせてオシャレなものを作りながら続けていこうと取り組まれています。



### ■宮嶽池整備

堀之内にある宮嶽池は、令和2年に行った「池の水を全部抜く」というテレビ番組の企画によりだいぶ環境が変わりました。そして、地域の方が活用できる池にするため、市で改修が計画されてきました。

現在は、今後の活用方法を考えるため、見学会が行われ、議論がされている最中です。これからはもう少しオープンに、いろんな方が参加できるように見学会などが行われていくのではないのでしょうか。



#### 都市農業とは

市街地やその周辺で行われる農業のことです。消費者に近いという特徴があり、消費者は新鮮な野菜やミルクなどの農産物を購入できるというメリットがあります。

## 地域環境を活かしたシビックプライドの醸成



市民一人一人が自分たちのまちに愛着を持ってもらえるような、地域環境を生かした活動を紹介します。また、実際にそのような活動をされている北見さんにもお話を伺います。

### ■ミズカツ

ミズカツは、八王子の水辺を活用して活動するための社会実験です。水辺を行政のみで管理するのは難しいため、市民に活用してもらう代わりにきれいに使ってもらうという、行政課題と市民要望を上手くマッチングさせている活動です。

例えば、川があって良いまちだな、ということが市民に浸透すると、川を大事にしようという想いが芽生え、まちへの愛着が生まれます。それがシビックプライドにつながると考えています。



### ■みはらしプレーパーク



みはらしプレーパークでは、子どもたちが本能のままに遊べる環境を整えています。最初は子どもの遊び場作りということで活動を始めましたが、私が活動を始めて6年経過した今となっては、次第に地域住民の交流の場になっているのを感じています。



子どもをきっかけにして大人の交流が生まれ、やがて八王子市民としてお互いに育っていくことで、シビックプライドにつながっていきますね。

### ■森の教室project

聖パウロ学園高等学校で、学校林を活用するプロジェクトに参加しています。森の教室の場所を決め、どんな場所にしたいか、どんな椅子を置きたいかをワークショップし、ウッドデッキをみんなで作りしました。夏に床板張りを行った際、気持ち良い場所だねと言い合っていたのが印象に残っています。

この取組は、単年で終わることなく、生徒主導で今後も地域の団体と協働しながら行われる予定です。私自身も一緒に伴走していきたいと思っています。



子どもの頃の記憶が仕事につながり、さらにその先につながっていくと思います。そのときに、八王子って良いところなんだなど、ふと思うきっかけにもなるので、子どもたちに地域の魅力を伝えるのは大事だと思います。

## 市民が担い手となり、更新されていくまちなみ



市民が計画に関与したり、まちの活用方法について議論したりしている事例を紹介します。

### ■北野下水処理場・清掃工場跡地活用構想ワークショップ

このワークショップは少し特殊な内容となっていて、デジタル系の会社と協力し、デジタル技術を使って行われました。専用のゴーグルをつけることで、3Dのモデル空間に都市計画情報が表示されたり、敷地を歩いて建物が建った状態を体感したりしながら、どのような場所になると良いかを議論されていました。跡地整備開始まではまだ時間があるため、ぜひ興味を持っていただければと思います。



### ■八王子駅南口集いの拠点整備

市は、つどいの拠点を市民から望まれる公園にしていこうとしています。これまでに、ワークショップ、説明会、見学会などが行われてきました。

また、つどいの拠点はインクルーシブ公園となります。インクルーシブ公園を運営していくためには、公園ができた後も利用者との対話を続け、可変しながら最適化をさせていくことが必要です。公園がオープンした後もみなさんが関わるチャンスは継続していくと思うので、ぜひ機会があれば関わってみてください。



### コラム：こくぶんじカレッジ（国分寺市）

こくぶんじカレッジ（こくカレ）は「まちが自分ごとになる」をテーマに、自分達でプロジェクトを考えながらまちづくりを学んでいくという国分寺市の市民講座で、高沖さんも参加されました。まちづくりを楽しもうというこくカレの卒業生は累計約200人で、それぞれが周りの人にこくカレの話を広げていくと、関係する人口はどんどん増えていく…ということを実感しながら参加されたようです。

高沖さんのチームは、東山道武蔵路という古代道跡でチョークアートをやってみたところ、通りがかりの子どもたちが参加してくれて、交流することができたようです。普段なら、子どもたちは見知らぬ人との関わりを警戒しますが、このような場ができることで、つながりや関係性が生まれることを、自らの体験を基にお話しいただきました。



### インクルーシブ公園とは

障がいの有無や年齢、性別、国籍、貧富の差などを問わず、みんなが遊べる公園のことです。物理的なバリアだけでなく、心理的なバリアなどもない、誰もが集える場所を目指しています。



## 4 おわりに：景観とウェルビーイングの関わり



ウェルビーイングは「心身ともに健全な社会的つながり」と説明すると良いのかなと思います。これまで、生業と土地の関係が担ってきた景観があり、それが同時に暮らしに幸福感をもたらしていました。しかし、社会構造の変化により、仕事と住む場所が切り離されると、その関係が希薄になってしまいます。

生業がなくなっていく中で、良い場所だと思えるものを維持していくのは、そこに住んでいる人ではないでしょうか。生業と土地の関係を再構築することが、これまでの幸福感を得る方法のひとつではないかと考えています。

みなさんに考えていただきたいのは、まちへの関わり方は人それぞれだということです。例えば、今回のようなセミナーで様々なプロジェクトを聞いたときに、「色々なことがまちで巻き起こっている」ということを知るだけでも、その一歩になると思います。

私の通勤路の花壇を整備している方にインタビューした際、「前から整備しているところをお見掛けしていて気になっていました。」と伝えたところ、「ほかのみんなも喜びますので是非お声がけください。」と言われました。



このように、たとえ活動に参加しなくとも、見掛けたときに声を掛けるだけでも、関係が良い方向へ変わっていきます。活動している人も喜びを感じますし、私たちも幸福感を得られる瞬間になります。まちで巻き起こっていることの裏側を知れば、豊かな世界が広がっていることに気が付きますし、活動している人の想いを考えるだけでも、まちにとって良いことになるのではないのでしょうか。



### ウェルビーイング (Well-being)

#### 心身ともに健全な社会的つながり

- ・生業と土地の関係が担ってきた景観は、暮らしに幸福感をもたらしていました
- ・その関係性の希薄化により、持続困難な景観があります
- ・暮らしと土地の関係を再構築していくことが、幸福感を得る方法のひとつと考えます



**関わり方はひとそれぞれです**  
**景観に関わっている人や活動を知るだけでも、**  
**幸福感を得られます**



## 5 セミナー参加者からいただいた意見・感想

セミナーに参加していただいた方々からは、たくさんの意見や感想をいただきました。その中からピックアップしたのものに対し、高沖さんからのコメントを紹介します。

セミナーで市内のさまざまな風景を教えていただきました。私もシビックプライドが高いため、やはり八王子はすてきな所だと感じることができました。何か私にもできることはあるでしょうか？



まずは、興味のあることや場所をテーマにした活動（セミナーやイベントなど）に参加してみると良いかもしれません。すると、同じ思いを持ったお仲間知り合える可能性が高く、新たな情報が得られたり、活動を紹介いただけたりできると思います。



八王子は都心から一番近い山と河川と道の交わる場所と聞き、たしかに！と思いました。私も八王子で活動を始めるかもしれません。自然の中にコミュニティスペースをつくりたいと考えています。



市内にはそうした活動がいくつもありますので、ぜひ参加されると良いと思います。飛び込みで参加するのはハードルが高いかも知れませんが、行政にはそうした情報もありますので、ご相談されるとよろしいかと思います。



八王子景観100選は、自分で歩いてこの目で見て、体感したいと思いました。もう一度身の回りの自然、景観をしっかり見たいと思います。



同じ場所でも季節や時間、天候によって見え方は異なりますので、それをぜひ感じてください。また、景観に興味をわくと恐らくご自分で勉強などされると思いますが、するとさらに新たな発見ができて、より楽しくなると思います。



地域活動から、どう景観につながるのかそのつながりがわかりました。景色がきれいな景観だけではなく、人が活動している景観からこの先何か変わる予感がしました。



これまで社会的な仕組みの中で無意識に維持されてきた風景は、社会の変化の中でやがてなくなっていくかもしれません。良いと思うものは残したいですが、そのためには新たな仕組みが必要になります。ご感想の通り、人が活動している景観は、そうした未来の姿や希望が感じられるのかもかもしれません。



景観の奥深さを感じることでできるセミナーでした。高沖さんの八王子愛を感じました。



仕事で全国いろいろな土地を訪れると、どこも魅力にあふれています。同じ目線で八王子を見てみると、やはり魅力を感じます。それは、私が他の地域と比較できるような機会に恵まれているが故ではありますが、景観を面白がって眺めてみると様々な気づきや学びがあるということを、本セミナーで感じていただけて嬉しく思います。

